

「見えるものでなく、見えないものを」

(Ⅱコリント 4:18)

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。
見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。

So we fix our eyes not on what is seen, but on what is unseen. For what is seen is temporary,
but what is unseen is eternal

たいていの人が、大切なのは目には見えないものだ、ということは何となく感じているだろう。自分と関わる人について、弱い人をも重んじる心のやさしい人、嘘を言わないような人をだれでも好むのは当然のことであるが、それは良き心という目には見えないものを誰もが重んじていることを示すものである。

このように、目には見えない心の大切さを敏感に感じ取るのが人間なのである。しかし、他方では、目に見えるもの、外見のよい人や、お金の力そのものや、また金で買えるもの、あるいは人からの評判など、目で見たり、聞いたりするものからの誘惑が大きいために、目に見えるものに引きつけられてしまう。

自然の美しさに心を動かされる人は多い。しかし、その自然のたとえようのない美しさや、かぎりない多様性などを創造された神そのものに心を向け、神のすばらしい力と美を感じて神を賛美するという人になると、とくに日本人にはきわめて少数となる。そのような神を信じる人がごく少ないからである。そのために目に見えるものでとどまってしまうということが実に多い。

人間に関しても、高齢の人や病気、あるいは障がいをもった方々と接して、その見える部分だけを見て軽視、あるいは差別するということがしばしば見られる。しかし、そうした人たちの心を見つめるときに、まったく違ったものが感じられてくることが多い。

さまざまな人間の背後に、目には見えない神の愛のお心があり、太陽のように同じようにその愛をそそいでおられる、ということは私たちが意識してそのように心の目で見つめていかなければつい表面の見えるところだけを見てしまう。

見えるものはみな移り変わっていく。しかし、神の愛や真実など、神の本質は永遠に変わらない。人間世界はいかに汚れて暗いもの多くても、その背後に輝き続けている太陽のごとき存在である神とキリストを見つめることで私たちはその闇に吸い込まれていくことから守られる。

若いときにも、目には見えない神の愛を信じ、それを見つめて歩むことで新たな力が与えられるし、病気るとき、老年のとき、苦難のときにはなおさら見えるものでは力を与えられないから、見えないものを仰ぎ、すがって力を与えられたいと願う。

私たちはみな、最終的には死を迎えるが、見えないものを見つめるまなざしをしっかりと持ち続けるとき、死後に約束されている復活ということ、しかもキリストと同じ栄光の姿に変えられるということをも信じることができるし、目には見えない神の導きを受けてこの世を歩むことができる。



ニッコウキスゲ

月山 2010.7.30

この花の名前はもう 40 年以上も前、大学を卒業後、最初の赴任先の高校の同僚であった生物の教師から教えられて知っていました。しかし、植栽でなく、実際に広々とした自然のなかで咲いているのは、今回初めて見ることができたのです。写真などでよく見られる日光付近のこの花の大群落でなく、この写真のように、雄

大な月山(*)の緑のなだらかな山の斜面にほかの花とともに咲いていたものです。オレンジ色の美しい花は一日で終わりますが、次々と新たな花が咲いていきます。

聖書とは神の言葉が記された書物です。神の言葉とは、神のご意志が表されたものです。そして自然の植物もまた、神のご意志によって創造されたものであるゆえに、神の言葉の一つの表現だと言えます。

人間の理解できる言葉で書かれた神の言葉たる聖書と、神のご意志そのまが見えるかたちで現れた太古の昔から存在している野草たち、そしてそれを取り巻く自然の姿、そこに私たちは人間の意志を超えた神の広大にして深遠なご意志の一端に触れることができます。

広大な緑の草原と山の連なりを背景にして流れてくる霧とともにこの花が神への賛美を歌い続けている、という感じがします。それはいかなる不純なものも存在しない天の国の賛美を奏でている雰囲気たたえています。

清さと、美と深さ、そして広がりといった私たち人間世界では存在できないようなものが、ここに豊かに広がっているのを実感して、まさに神のご意志の一端に手を触れるような身近な感じを与えられたことです。

(*)月山(がっさん)は、火山で標高 1984m。山形県のほぼ中央付近にある。この山に登るという特別な機会が与えられたのは、北海道の南西部の日本海側にある瀬棚地方での聖書集会からの帰途、山形県鶴岡市での聖書の礼拝集会を終えて、山形の集会に向かう途中であ

った。その日の夜に予定された聖書の集会にはまだ時間があり、毎日、長距離の自動車運転と室内での集会を繰り返していると、だんだん睡眠が十分とれなくなってくるので、身体を動かし、心身を別のところに向けることが必要だった。以前そのために眠ることが十分できなくなり、体調が悪くなって回復に数カ月かかったということもあり、そのためにリフトなどがあって高山植物が咲いているところまで歩かずに達することができ、しかも高速道路から近いという条件の山としてちょうど月山が行程の途中にあった。

なお、写真の白い花は、モミジバカラマツ、赤い花は、ヨツバシオガマ。手前の幅の広い葉は、コバイケイソウ。キスゲ(黄菅)という名前は、黄色の花で、スゲ(菅)という植物の葉に似た細い葉をしているから名付けられた。(文、写真とも T.YOSHIMURA)